

結核通信

【令和6年3月発行】

洲本健康福祉事務所(保健所)

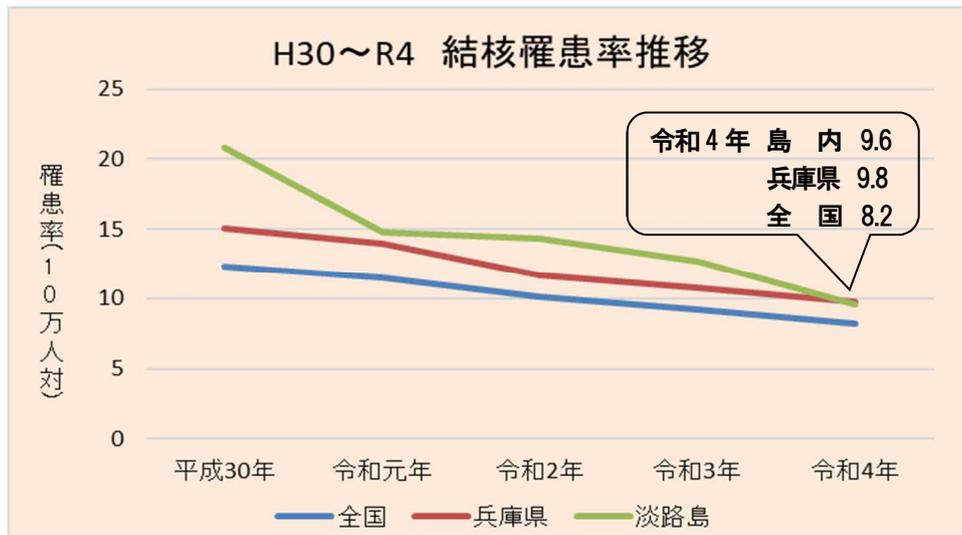
健康管理課

☎ 0799-26-2062 FAX 0799-22-3345

洲本健康福祉事務所管内の結核発生状況

淡路島内の結核罹患率は、年によって増減はみられますが、長い目で見ると確実に減少しています。H30～R4の5年間をみても減少傾向にあり、令和4年には9.6(人口10万人対)となりました。

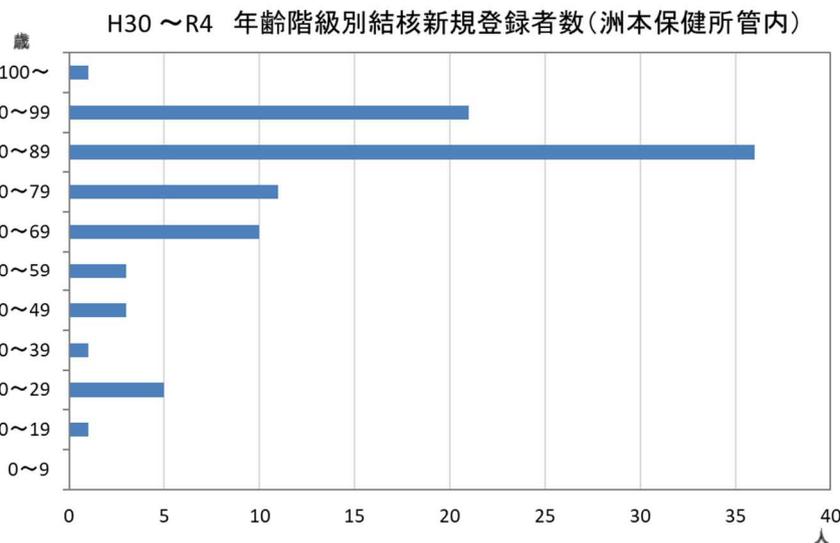
しかし、全国の罹患率と比べると現在も高い状況にあり、今後もさらなる罹患率の低下に向けて対策が必要です。



島内ではH30～R4の5年間で92名の新規結核患者(潜在性結核感染症を除く)が発生しています。そのうち7割以上が70歳以上の高齢者で、年代別にみると80～89歳の割合が最も多く全体の39.1%を占めています。

高齢者では結核既感染者の割合が高く、体力・免疫の低下に伴い、結核を発病するリスクがあるため注意が必要です。また、60代以下の働き盛りでも結核を発病することは珍しくありません。

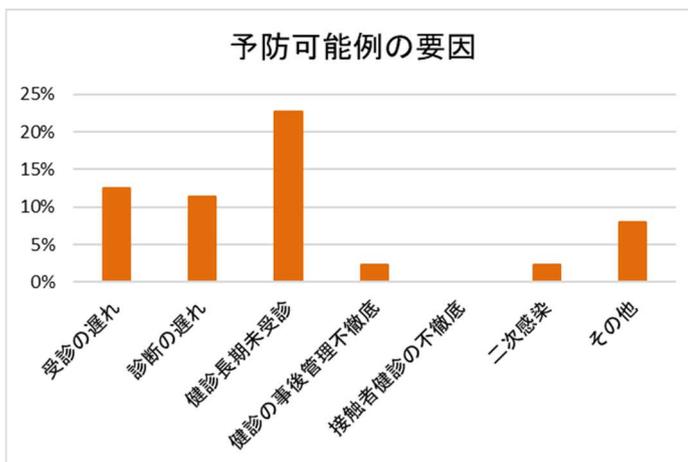
結核を早期発見し、重症化・二次感染を防止することが大切ですが、中にはより早期に発見することが可能であったという事例も発生しています。結核を念頭においた診療にご協力をお願いいたします。



結核の予防可能例について

予防可能例とは既存の諸制度が十分活用され、予防のための対策が効率的かつ適切に行われていれば、結核の新たな感染、発病(再発)、あるいは重症化の予防が期待できた例のことを指します。洲本健康福祉事務所管内では過去5年間の対象者のうち半数以上が予防可能例に該当しています。

予防可能例とされるものを要因別にみると、「**受診の遅れ**」「**診断の遅れ**」「**健診の長期未受診**」の割合が多くなっています。



「**受診の遅れ**」には、

- ・なんとなく体調は優れないが咳などの典型的な症状がなく受診していなかった
- ・症状があっても我慢していた
- ・就労中で受診の時間がつれないなどがあります。

「**診断の遅れ**」には、

- ・喘息や感冒と診断されていた
- ・X線検査や喀痰検査の未実施、異常所見の見落としなどがあります。

事例

○独居、家族歴有

- ・他疾患にて受診し治療を行う。この頃から倦怠感が続くようになる。
- ・2ヶ月後に呼吸困難が増強し救急搬送され入院となる。
喀痰検査実施するも結核菌陰性で肺炎に対する治療を行う。
- ・1ヶ月後、転院時の喀痰検査にて結核菌塗抹陽性が判明し肺結核と診断される。

○就労中

- ・健診の胸部X線検査で初期の陰影見落とし。
- ・4ヶ月後、他疾患治療中に胸部に陰影ありと指摘、肺結核と診断される。

最初は分からなくても、後に結核と判明するケースや他疾患をきっかけに結核を発病するというケースもあります。

洲本健康福祉事務所からのお願い

早期発見のために

- ◇ せき、痰、微熱、倦怠感が持続するような場合、既往歴(治療歴)や家族歴がある場合は結核の可能性も考えていただくようお願いします。
- ◇ 高齢者の方や長期健診未受診と分かった方に対しては、年1回の胸部X線検査の提案と実施を積極的に考慮いただきますようお願いします。
- ◇ 結核が疑わしい場合には、積極的に喀痰検査、胸部X線検査(CT検査)の実施をご検討ください。(画像所見等で強く疑われる場合、喀痰検査を繰り返し実施することも重要です)

診断について

- ◇ 検査により結核菌と判明した場合には、当所への届出とPCR等による同定検査・薬剤感受性検査の実施をお願いします。
- ◇ 見落としを防ぐため、結核の可能性もあるが、症状や所見が典型的ではないなど、診断が難しい場合には、早期に専門病院への相談・紹介をお願いします。

結核の感染拡大予防のため、早期発見・早期治療にご協力をお願いします。

